

## まぼろしの淡水魚「イタセンバラ」発見される

コイ科の淡水魚「イタセンバラ」が富山県では約30年ぶりに発見されました。よく知られているライチョウとニホンカモシカは国の特別天然記念物、そしてイタセンバラは国の天然記念物に指定されている淡水魚です。イタセンバラは、富山県以外では、淀川、濃尾にしかいません。いずれの場所でも数がへっているため大変貴重な発見となりました。

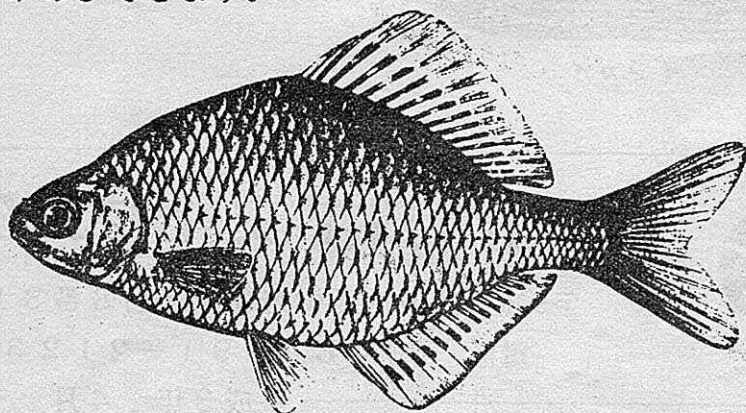
### 発見された川の様子

イタセンバラは、オニバスで有名な氷見市の十二町潟の上流の小さな川でみつけられました。この川には、フナやメダカなどの魚もすみ、川底には、今ではほとんどみかけなくなった二枚貝のイシガイやドブガイもたくさんすんでいました。イタセンバラは、昔ながらの面影を残す小川でひっそりと生きていたのです。

### イタセンバラの身体検査

イタセンバラは、体長約10cmのフナを小さく平たくした体つきの淡水魚です。日本に11種いるタナゴの仲間の1種です。タナゴの仲間では最も平たく、大きい方にはいります。「センバラ」は岐阜県での呼び名です。

美しいのはオス。卵を持ったメスをさそう秋にはピンクの鮮やかな体色になり、ひれも黒っぽくなります。銀色のメスには卵を産むための管（産卵管）がのびてきます。



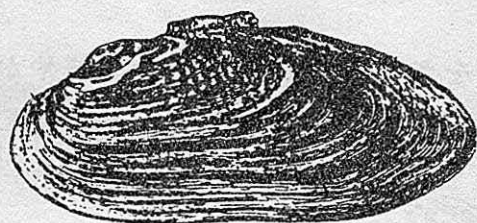
イタセンバラ（メス）＜保育社の原色日本淡水魚類図鑑より＞

## イシガイがゆりかご

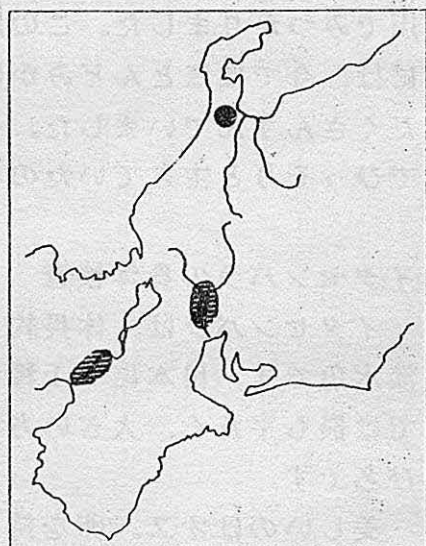
メスの長くのびた産卵管は、イシガイやドブガイなどの二枚貝に卵をうみつける時に使われます。卵を産みつける貝は、殻の長さが3-7cmの小さなイシガイを好むようです。メスのイタセンバラは、貝の水の出る管（出水管）に産卵管を入れ、30-100個の卵を産みつけます。卵は貝の中で育ち、春に、子供が成長して貝から出てくると群れで生活します。貝はイタセンバラの卵や子供をまもってくれる大切なゆりかごの役目をするのです。世界に約40種いるタナゴの仲間は全て二枚貝に卵をうみます。最近では二枚貝がいる川が少なくなり、タナゴの仲間が少なくなってきた大きな原因になっています。

イタセンバラは、大阪の淀川、濃尾平野を流れる木曽川などの川、そして富山県にしかいません。富山県では、昔は放生津潟（現在の富山新港）周辺の川にもいたことが知られています。30年ぶりに見つかったイタセンバラがいつまでもみられるように大切にしたいものです。

（南部久男）



イシガイ



イタセンバラの分布



## 富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号

電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成3年 4月 1日発行

お知らせ：イタセンバラの標本を2階ロビーで展示します。

期間は4月2日から5月31日までです。ぜひご覧ください。